

平成18年度 子ども家庭支援センターたち 事業報告書要約

平成18年度の課題

- 1 利用者が気軽に利用できる施設づくりを目指す
利用者が安心して利用できる施設を心がける
- 2 利用者ニーズを把握して、支援の充実を図る
利用者自身が地域の中で、周りの人や社会資源とつながりが持てるよう支援する
- 3 利用者の安心・安全を保障し、事業の充実を図る
安全点検を実施し、防災・防犯等日常管理を徹底し美化を心がける
- 4 職員の資質・専門性の向上を図る
利用者に信頼される職員を目指して、マナー研修を実施する
- 5 「しらとり」との協働を心がけ、効率化を図る
しらとりとの役割分担を明確にする
- 6 相談事業の市職員との協働を図る
- 7 法人60周年を意識し、企画を構築する
法人主催企画に積極的に参加する

平成18年度概況

- 「ひろば」の来館利用者数は12万8千人、オープンから2年を経過し延べでは28万人となった。(cf. 府中市人口24万)市内をはじめ市外にも認知され、その存在感は確固たるものになった。リフレッシュ保育は年間1,320名の利用(99%が市内利用)、ファミリーサポート事業は年間の活動件数が5,000件を超えた。一方、相談事業は府中市との連携を強める中、職員体制も拡充し、法人の持つ専門性を発揮した
- 1 ひろばで利用は一日平均170組361名の利用があり、利用者の求めるタイミングを意識し、声かけするよう努めた。安全確保のため、90組を目途に入場制限を実施した。
 - 2 総合相談受付や情報コーナーおよびひろば等で、地域の子育て情報を幅広く提供した。
 - 3 毎月の防災訓練をはじめ、不審者対応の訓練も実施した。
また、掃除の徹底や観葉植物等を設置するなど、館内の美化にも努めた。
 - 4 法人主催の研修をはじめ、市を通した児童相談所等への体験研修や各種専門的研修を実施し、職員個々のスキルアップを図った。
 - 5 市およびたち・しらとりの連携については、連絡会等での情報共有は図れたが、事業運営については課題も多くあり、更なる協議が必要。
 - 6 専門相談員を配置し、市職員との連携は密になった。
 - 7 法人60周年事業については法人の企画や各種プロジェクトに担当者を中心に積極的に参加した。

館としての運営管理

- ① 平成17年3月のオープン以来、府中市の子育て支援の中核施設として認知度も高まった
- ② くるる館内の合同防災訓練をはじめ、ひろば・リフレッシュ保育を軸とした防災訓練を毎月実施した
- ③ 不審者対策として、「さすまた」を用いた防犯訓練を実施する等防犯意識を高めた
- ④ よりよい施設づくりに向け、利用者アンケートを実施した(1月：ひろば・リフレッシュ保育)
- ⑤ サービス自主評価(93項目)を実施(1月) 前年を下回る13項目を中心に次年度への課題として認識
- ⑥ 個人情報対策は、入職時研修に位置づけ徹底を図った
- ⑦ 限られた人員体制の中、多岐にわたる業務を職員一体で推進したが、今後も市との更なる協議が課題

総合相談

- ①市の相談員5名に法人内専任相談員2名・受付兼任相談員4名の体制で、随時協議を重ね対応した。
- ②新規相談件数764件で、内容は育児不安やストレス、健康・心身の病気、児の不登校や発達、家族内の暴力の相談が多い。
- ③虐待の相談は全体の約3割で、家族からの相談・関係機関からの通報に加え、児からの相談も増加した。
- ④ひろば登録受付や身体測定などで、気軽に相談してもらうことで早期に予防的かわりが出来た。
- ⑤子育て交流会「すやすや・ころりんクラブ」を3回開催し、落選した方には「ミニすやころ」交流会を開催した。
- ⑥子育て講座「カンガルータイム(妊婦世帯向け2回、1歳児母親向け、0歳児触れ合い遊び)」を4回開催した。

ひろば

- ①登録総数は22,484名(市内10,799名 vs 市外11,685名)と市外が市内を上回る。
- ②平成18年度単年では、市内33% vs 市外67%と市外が増加傾向 今後に向け危惧される。
- ③母子同士の交流もはかれ、母と子以外にも、土日を中心に父と子や祖父母と孫の利用も目立つ。
- ④利用者の多い日(夏休みを中心に)には利用者の安全を確保するため、入館制限を実施(90組を目途)した。
- ⑤11時・14時にスポットタイムと名づけた日替わりでのプログラムを活動を実施し、好評を得た。
- ⑥七夕・クリスマスなどの季節スポットタイムを実施、また対象を0歳児に限定したスポットタイムを試行実施した。
- ⑦府中市ボランティアセンターとの連携の下、ボランティアを受け入れ、11名が活動した。

リフレッシュ保育

- ①常勤職員2名と非常勤職員4名で1日3名の体制で業務にあたった。
- ②リフレッシュ保育新規登録者数は457名、延べ登録者数 1,234名(1日：4時間以内の保育)であった。
- ③リフレッシュ保育利用者数は延べ1,320名で、1日あたりの利用者数も若干ではあるが増加している。
- ④利用理由は約半数がリフレッシュで、仕事・相談の理由が昨年に比べ増えており、利用時間も長くなっている。
- ⑤4月から保育利用予約手続きを、電話のみで事前予約できるように簡便化した。
- ⑥リフレッシュ保育の業務に加え、相談員と連携し相談時における保育を行った。
- ⑦アンケート調査では利用時間の延長や30分単位の利用、当日予約利用の可能などについて意見が寄せられた。

ファミリーサポートセンター

- ①18年度の新規登録者は279名で会員数合計1,107名(依頼857名提供199名両方51名)となった。
- ②年間活動件数は5,033件で17年度より403件増加した。
- ③一番多い活動は保育所・幼稚園の迎え及び帰宅後の預り1,556件、次に障害児の通級や学童への送り749件
- ④提供会員のスキルアップ企画としてコミュニケーション・精神疾患・発達障害について講座を開催した。
- ⑤年2回の交流会は、春は小児科医を招いて勉強会、秋はわらべ唄の講師を招いて親子で楽しんだ。
- ⑥サブリーダーの活動として年10回の定例会で活動状況や行事の企画について話し合ったほか、広報活動の一環としてポップコーン事業の見学を行った。
- ⑦ファミリーサポート通信を年3回発行し、全会員のほか各関係機関や文化センターなどに配布した。

